

定例部長会議開催結果 概要

●日時	令和5年11月7日（火） 午後1時30分から午後2時37分まで			
●場所	3A会議室			
●出席者	■は出席（代理出席は○）			
	■ 市長	■ 内田副市長	■ 高橋副市長	■ 教育長
	■ 政策部長	■ 総務部長	■ 暮らし安心部長	■ 文化スポーツ部長
	■ 福祉部長	○ こども健康部長	○ 環境産業部長	■ はだの魅力づくり担当部長
	■ 都市部長	■ 建設部長	○ 上下水道局長	■ 教育部長
■ 消防長				
進行：副市長 事務局：総合政策課長、総合政策課課長代理、担当 陪席：秘書課長				
●会議	1 市長あいさつ 2 報告事項 (1) 長期財政推計について [財政課] (2) 令和5年度災害対策本部運営訓練の実施について [防災課] (3) 第9期秦野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（案）について [高齢介護課] (4) 秦野市弘法山公園利活用方針（案）について [観光振興課] (5) 土地利用委員会調整部会の審議案件について [開発指導課] 3 その他			
●会議概要	1 市長あいさつ ・秋の深まりを感じる季節となった。朝晩の冷え込みが厳しく、日ごとの寒暖差も大きいので、体調管理には気を付けて過ごしてもらいたい。 ・3年半以上にわたった新型コロナウイルスの影響も、若干の懸念は残るものの、明るい兆しを見せている。 ・インフルエンザは例年より早い流行を見せ、市内小中学校では学級閉鎖が続いている。職員も十分注意してもらいたい。 ・11月3日の「市民の日」は、天候に恵まれ、来場者数は13万4千人と非常に賑わいを見せた。当日従事した職員には、改めて感謝したい。 ・10月20日から22日の3日間、友好都市である韓国の坡州（パジュ）市を訪問し、坡州市最大のお祭りである「坡州開城（ケソン）人参祭り」の開会式に出席した。 ・多くの市民が集う活気ある韓国の伝統行事に深い感銘を受けた。また、キム坡州市長をはじめ、坡州・秦野友好協会、坡州市議会の方々から心のこもったもてなしを受け、それぞれの立場で意見交換を行うこともできた。 ・坡州市の人口は約51万人で、面積は672.8平方キロメートルと、大変大きな都市である。本市と友好提携をした18年前の人口規模は本市と同程度だったと聞いており、非常に成長が著しい都市だと感じた。 ・飛躍的に発展している坡州市を目の当たりにし、本市にとっても今後の参考になることが多く、国際交流の意義や重要性を強く感じた。機会があれば			

訪問し、足元からの交流を進めてもらえればと思う。

・4月24日に医療法人葵鐘会と「女性と子どもが住みやすい連携協定を締結し、今年13日（月）に念願の産科有床診療所「アクアベルクリニック」が市内鈴張町で開院する。

・これを契機に、産後ケアを含めた子育て環境のより一層の充実を図るなど、引き続き「妊娠・出産からこどもたちが社会に羽ばたくまでの切れ目のない支援」を行っていきたいので、関係部局連携のもと、よろしく願いしたい。

・新年度予算については、今年10日が当初要求の提出期限ということで、まさに各部局では予算編成事務の最中にあると思う。

・歳入では、コロナ禍からの景気回復や賃金上昇が見込まれるものの、生産年齢人口の減少等の影響を受けて、市税収入で1億9千万円の減収を見込むなど、一般財源は353億8千万円、昨年度比で△1.5%、5億4千万円の減額となる見込みとなっている。

・一方、歳出では、会計年度任用職員への勤勉手当支給等による人件費や総合計画に基づく建設事業費の増加、新規施策の実施等が見込まれ、一般財源全体で、昨年度比で29億円増の388億2千万円となり、直近10年間で最大の34億4千万円の財源不足が見込まれる。

・また、昨年から続く物価高騰等の状況によっては、更なる財源が必要となる可能性もあることから、燃料費や光熱水費を除く業務運営費については、令和5年度当初予算額から10%の削減をお願いしているところである。

・最優先すべき事項は、コロナ禍後の社会変化及び物価高騰への対応であり、市民や事業者への影響や、国・県の動向をしっかりと把握したうえで、部局内で議論して、的確に予算へ反映してもらいたい。

・また、令和9年度の新東名高速道路の全線開通と秦野丹沢サービスエリアの開設を見据えて優先的に取り組んでいる「表丹沢の魅力づくり」と「小田急線4駅周辺のにぎわい創造」を前進させたいと思っており、同様に、「デジタル化」や「カーボンニュートラル」、「子育て環境の整備・充実」も積極的に進めていきたい。

・令和7年1月1日に市制施行70周年を迎えるにあたり、これまでの歩みを振り返ると同時に、「ふるさとほだの」の魅力を高める取り組みを市民と共に進めていきたいと思う。

・こうした取り組みは、本市が大きく飛躍、発展するために欠かせない施策である。部局長のリーダーシップのもと、職員の意識改革を促しながら、組織一丸となって適切に対応してほしい。

・11月に入り、予算の当初要求が佳境を迎え、今年30日からは第4回定例会の開会となり、大変慌ただしい日が続くが、オンとオフをうまく切り替えながら、市民のために尽くしてもらいたいと思う。

2 報告事項

(1) 長期財政推計について

[財政課]

【説明】資料に基づいて説明

【意見・質疑】

問. 長期財政推計の期間を20年とした理由は何か。

答. 通常は総合計画の基本計画と同様に10年で作成しているが、公共施設の更新等は10年という短いスパンで計ることが難しいこと、施設整備に活用する公債費の返済期間は15年から20年であること、10年では事業実施の効果や財政負担が見えづらいことなどから、20年とした。

問. 一般的に20年の長期推計は、あまり精度が高くないイメージがあるがどうか。

答. 長期になるほど制度改正などの影響が大きくなるが、人口減少や超高齢社会などに対応するためには長期的な視点が必要なため、現行制度に基づく長期推計を行うこととした。

(2) 令和5年度災害対策本部運営訓練の実施について [防災課]

【説明】 資料に基づいて説明

【意見・質疑】 なし

(3) 第9期秦野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（案）について [高齢介護課]

【説明】 資料に基づいて説明

【意見・質疑】 なし

(4) 秦野市弘法山利活用方針（案）について [観光振興課]

【説明】 資料に基づいて説明

【意見・質疑】 なし

(5) 土地利用委員会調整部会の審議案件について [開発指導課]

【説明】 資料に基づいて説明

【意見・質疑】 なし

3 その他

(1) アクアベルクリニックの開業について [こども健康部]

・市内鈴張町で、11月13日（月）に開院する。

・ベッド数は13床で、妊婦健診、分娩の取扱いのほか、婦人科健診等の診療を行う。